

東西のメロディーがマカオで溶け合って…

中国古箏奏者 伍芳さん
フアド歌手 鹿糠 ちはるさん

マカオ観光局が開催するコンシューマー向けイベント「マカオの夕べ」のメインプログラ
ムは、「フアド」と「古箏」との競演コンサート。まさに東西文化が融合したマカオにびつた
りの組み合わせです。華麗なステージを披露するふたりが今年5月、マカオを訪れました。

…音楽との出会いを聞かせ
てください。

鹿糠 ポップスを中心に音楽
活動をしていた頃、フアドに
出会いました。そして初めて
訪れたリスボンで、生音で奏
でられるフアドを聴いた時、
言葉にならない感情を抱きま
した。

黒いシヨールを身に纏い、
人々の心の響き、生きてきた
人生の深みを心の奥底から響
かせて歌う歌手はもちろん、
ウェイトレスの女性が突然リ
スボンを讃える歌を歌い始め
たり、多彩な表現で愛されて
いるフアドに感銘を受けたの
です。

伍芳 わたしは叔母に勧めら
れピアノとバイオリンを習い
ましたが、手が小さいためす
ぐに挫折しました。その後、
叔母の紹介で中国を代表する
古箏演奏家の王昌元先生の家
で初めて古箏と出会いました。

…当時9歳だったとか。

伍芳 はい。その美しい形だ
けではなく、心に響く美しい
音色に魅せられました。今で
も覚えておりますが、鳥肌が
立ち、体が震えました。世の
中にこんなに美しい音色を出
せる楽器があるんだと。すぐ
に古箏を習いたいと思いまし
た。

…ポルトガルにはサウダー
デという美しい言葉があると。
どんな意味ですか。

鹿糠 郷愁、哀愁、過ぎ去っ
た時間への思い、愛しい人と
離れ離れの切なさや淋しさな
ど、複雑で豊かな内容を意味
します。リスボンで私は今ま
での人生を歌いたい、これが

らの人生をフアドと共に歩ん
でいきたいと深く思いました。

ゆったりした時の流れ

…マカオの第一印象はいか
がでしたか。

鹿糠 まるでポルトガルにい
るかのような景観が中国の町
並みに様変わりし、自分がど
こにいるのかわからなくなっ
てしまう感覚が楽しかったで
すね。

伍芳 エキゾチックで美しい



鹿糠 ちはる

伍芳

(かめか ちはる)さん
1997年より札幌で音楽活動を
開始。ポルトガルに渡り有
名なフアドのライブハウス
「maior」のジュリエッタ
氏の指導を受ける。05年に
は「フアドの友ポルトガル
協会」会長ルイス・ベ・カス
トロ氏から正会員証を授与
される。同年デビューアル
バム「Partida」リリース。

(ウー・ファン)さん
上海生まれ。中国古箏演奏
家・作曲家。1996年以来、
日本での中国楽器ブームの
先駆けとなり、これまでに
10枚のアルバムを発表。そ
の間、皇太子様雅子様のア
ーティストと共演。今春から
は大阪ABCラジオの「伍芳
の神戸再発見」でパーソ
ナリティを務めている。

が多く、街並みが立体的に見
えるのも素敵ですね。また古
い建築物を大切にしているこ
ろが印象的でした。

…心に残った出来事は？

鹿糠 伍芳さんと足つぽマッ
サージに行った際、とても力
の強い方が担当になり、私の
凝りもひどかったらしく「あ
なた、あまり眠れていないで
しょうか？」といわれながら力
強くマッサージされました。
肩マッサージでは指先まで痺

港町だなどと思いました。セナ
ド広場の海をイメージした石
畳が強く印象に残りました。

鹿糠 建築物や広場、石畳が

とても風情があり、遙か彼方
の面影を感じました。夜は鮮
やかに彩られた景色とマカオ・
タワーが水辺に映し出されて
きらめく夜景にうっとり。

…故郷の上海と比べていか
がでしたか。

伍芳 ゆったりした空気が流
れていて、ホッとできる場所
がたくさんありました。坂道

たね。ダンスと演技も素晴ら
しく、一秒も目を離さず鑑賞
しました。またバンジージャ
ンプに挑戦しようとした
が、やる気満々いざマカオ・
タワーに上がると、あまりの
高さに目まいがして…(笑)。

歌いたい、奏でたい

…時間が足りなかったよう
ですが…。

鹿糠 次回は水着を持参して
ゴージャスなホテルに宿泊し、
美味しいポルトガルワインを
飲みながら優雅で贅沢な時間
を過ごしたいと思えます。

伍芳 ポウサダ・デ・サンテ
ィアゴでゆっくり滞在し、美
しい海を眺めながら癒しの時
間を過ごしてみたいです。そ
して世界遺産すべてをゆつく
り回ってみたい。もちろん美
味しいマカオ料理をいただき
ながら(笑)。とくに「カリー
クラブ」が気に入りました。
辛さの中に程よい甘味があり、

クリーミー。カニが丸ごと入
っているのもいいですね。

…マカオで演奏するとした
らどこがいいでしょう。

鹿糠 ポルトガル料理レスト
ランや世界文化遺産で歌う機
会に恵まれましたら光栄です。

伍芳 鄭家屋敷で蓮の花に囲
まれながらコンサートを実現
したいと思えます。

(写真・ポウサダ・デ・サンテ
ィアゴにて)